

TANQ わくわくお届け便

1 ようす LET'S本音で探究トーク!

本研修のねらいは、探究的な学びに対する認識を見つめ直し、所属校の実践への意識を高めること。先生方に目指してもらいたいゴールの姿は、「総合的な探究の時間や担当教科の実践において探究的な学びの実現へ向けて行動しようとしている。」と設定しました。アイスブレイク、西村先生の講話から始まり、ワーク③のわくわく宣言!まで、「探究する生徒の姿」「本音で語る」を共通するキーワードとして取り組みました。



西村先生の講話では、「探究レベル」を紹介していただきました。探究サイクルのような「開いた探究」をいきなり求めるのは難しい。であれば、課題設定、情報収集のようにパーツごとに学ばせますか?これでいいのかな?教師が提示した問いについて、決められた手続きによって調査する「構造化された探究」や教師が提示した問いについて、自ら設計・選択した手続きで調査する「支援・道筋のある探究」もある。このお話から、探究に対する受け止め方に変化があった先生も多いのではないのでしょうか。その他にも「過程にこそ学びがある」「教科と総探は両輪」「共に考え、共に学ぶ」といったパワーフレーズがたくさんありました。皆さんはどんな言葉が印象に残っていますか?

アイスブレイク「こんな授業はイヤだ!」を皮切りに、きっとあの時に生徒は探究していたのかな?といった具体的な生徒の姿について意見交換するワークに進み、その姿に気づき、育むために何を大切にしたいのかまで迫ることができました。中には探究に乗ってこない生徒にはどうしたら…もやもやした部分にも、まずはよりよい信頼関係を育むことから!と参加者同士でわくわくへ方向転換する様子も見られ、時間を経るにつれて、本音で語る空気が伝わってきました。

**探究の種をまいてみませんか?
生徒のつぶやき、表情の変化を
つかまえましょう! 気を楽に!**



広島県立教育センター企画 共創型研修 第1回

01 LET'S本音で探究トーク!

令和6年6月28日(金) 13:30~16:30

探究の重要性はわかっていても、なかなか取り組めない、うまくいかない。そもそも探究する生徒の姿とは、どのような姿を求めていますか?

研修プログラム

13:30~	オープニング
13:35~	アイスブレイク「こんな授業はイヤだ!」
13:50~	本研修の方向づけ
13:55~	講話「今、なぜ、探究的な学びの実現が求められるのか?」
14:40~	休憩
14:50~	ワーク①「え?これも探究だったのかな?『探究の芽』を共有!」
15:05~	全体共有ワーク②「なぜ、それを探究だと思ったの?」
15:15~	全体共有ワーク③「生徒の『探究の芽』を育てるために、授業でどのようなことを大切にしたいか?」
15:50~	全体共有振り返り
16:00~	新たな一歩を、わくわく宣言!
16:10~	質疑応答、リフレクション
16:20~	アンケート回収、クロージング

本研修のアドバイザー 東京学芸大学高校探究プロジェクトの皆さん

余談ですが... 本企画の開始は、4月3日の顔合わせからスタート! 本企画の開始は、4月3日の顔合わせからスタート! 本企画の開始は、4月3日の顔合わせからスタート!

2 今日はまだ黙っておこう 参加者のつぶやき

- ・疑問から問いへ生徒の気づきをどのように支援していくか、考えながら取り組みたいと思いました。
- ・良質な問いの作成(深い教材研究)を。生徒のどんな考えでも否定せず、想像力・発想力を育む。
- ・自分自身がまずはわくわくすること。探究をするための素地を大切にしたい。

「今日はまだ黙っておこう。」 → 未熟さを活かす

「それでよかった?」 → 振り返りを促す

「〇〇さんはふふしていたよ。」 → 他から全体へ拡げる

※一部です

自分が楽しめる講座構築、運営。
「残す学び」の授業実践の実現に向けて、「今日はまだ黙っておこう」の姿勢の重要性を先生方に伝える。
現場の教員ではないですが、生徒に「右往左往の仕方を教える」ことの重要性を学びました。
①主体性 ②目的意識 ③社会や日常への汎化を意識して生徒の考え方を広げるような授業を展開していきたい。
授業を自分も楽しむこと。
右往左往のプロセスにこそ学びがあるので、プロセスを生徒と楽しみたい。
今回のワークで出てきた先生方のご意見全て、出会えたことに感謝をし、心に留めていきます。
総探が工業科の課題研究で置き換わっているが、モノづくり等に教科(理科)としてアプローチできるがないか考えていきたい。
生徒が自走し、1つでも「わかった」を自ら掴み取る授業。
2週間後に、文化祭で模擬店を実施します。生徒が運営のことを自分たちで考えて行動できるように、教えすぎず、失敗も見守っていきます。
生徒を俯瞰して見守れる状況に、手助けが必要な場合は、支えることができると感じました。

3 次のよこく 他県の総探、どんな探究? 実践からの学びをどう生かす

キーワードは、「**学校・生徒の強み**」「**過程**」?

第2回は8月8日(木)に実施します。
わくわくする学びを創りたい! 挑戦したい!
なぜ、あの学校は主体的に探究に取り組んでいるの?
何を大切に、どのような工夫をしているの?
県や地域を越えて、一緒に考えてみませんか?

今回参加していただいた方はもちろん、次回はお近くの先生をお誘いあわせの上、是非ご参加ください! お会いできることを楽しみにしております。

青森県専用
申込みフォーム

令和6年8月1日(木)
16時申込み締切

研修プログラム (現在構築中)

13:30~	オープニング
13:35~	アイスブレイク
13:50~	第1回の振り返りと方向づけ
13:55~	ワーク①
14:25~	全体共有発表、質疑応答
15:10~	休憩
15:20~	ワーク②
15:50~	全体共有発表、質疑応答
16:05~	新たな一歩を、わくわく宣言!
16:15~	リフレクション
16:25~	アンケート記入
16:25~	クロージング
16:25~	事務連絡